



愛媛大学
教育学部

同窓会報

第 105 号

愛媛大学教育学部

同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町 3 番

愛媛大学教育学部学務係室内

電話 (089)927 - 9383(直通)

FAX (089)927 - 8304

E-mail : dosokai@ed.ehime-u.ac.jp



愛媛大学教育学部同窓会役員一同

新しい年を 迎えるにあたって

同窓会長
奥定 一孝

教育学部同窓会員の皆様、ご健勝のうち新しい年を迎えられたことと存じます。昨年も子どもを取り巻く事件、事故が多く、年ごととに人心の荒廃がまねく問題が深刻化するにつけ、永年教育現場で奮闘されてきた会員の方々の、今年にかけるさまざまな期待も格別なものがあるかと存じます。

愛媛大学が法人化するという大改革の中で教育学部同窓会長の任を仰せつかつて、あわただしく二年半が過ぎました。日ごろ同窓会に思いを寄せ、その充実、発展にご尽力くださっていることに厚くお礼を申し上げるとともに、今年もよろしくお願いいたします。

法人化による改革が定着しつつある現在、城北キャンパスでは図書館や教育学部の建物などの改築

工事が急ピッチで進められています。耐震のための補強のみならず、多くは事務機構の改編に伴うかなり大掛かりなもので、今年になってまた学部の様子も大きく変わろうとしています。

教育学部の教育内容も、いわゆる教員を養成する場としてのものから、特に地域における教育・文化領域への貢献を柱としたものに拡大、変化した。多様多岐の様相を呈してきました。教員需要の減少が引き金となって設立されたいわゆる「ゼロ免課程」も、振り返ればその道筋にあったと言えましよう。卒業後の新しい会員の職種、職場も、時代の変化とともに多様になり、その結びつきもかつての同年、同課程の意識から、同専攻又はサークルという、ごく限られた関係に変質しつつあります。

教育学部同窓会も、こういった大学・学部との広がりに期待し、そこに単立つ同窓会員との発展的な関係を如何に保持し、また親睦を図るのが一層問われることになりそうです。これからの同窓会員の多様なニーズにできるかぎり呼応していくためにも、教育現場やそのOBを中心とするこれまでの運営のあり方は十分検討されるべき

時期にきています。明確な方策が見出しにくい、大変困難な道のりですが、そこにはまた同窓会の新たな発展の可能性も開けてくるのではないのでしょうか。

大学・学部の学び舎と卒業後の社会の場、或いは学部にあつては限りなく教員養成が求められた時代と広く社会教育に広げられた時代等々、いわば内と外のごとく、互いに関係しつつもそれぞれに異なった場や時がある。その「間」にあつて、もう一つの場の存在意義を求めていく組織が同窓会ではなかるうかと強く思うこのごろです。至極当然のことではあります。それぞれの場の独自性を保持しつつその間に立つことは容易なことではありません。

人と人との間にあつて「人間」と呼ばれるように、かつて私たちはこの「間」の考えや感じ方を大切にしてきたように思います。「客間」「間抜け」等々、「ま」という言葉が実に多く使われているのに驚かされます。しかし近年特に、内か外か、旧か新かといったそれぞれの場の独自性や意義を主張することに追われていて、「間」という場の意識が希薄になり、ひいては人や社会感情までもがcaえつて干からびてきたような気さえします。これまで、多くは教育現場に立つて困難な時代を乗り切ってきた教育学部同窓会員にあつて、今こそ「間」という場をあらためて見つめ、その存在意義を確かめ合うことが必要ではないでしょうか。意義を限りなく過去に求めることなく、かといって新しい時代におもねることもなく、私たちは

良い意味でのフアジーな場に居ることの確認です。

昨年度は、同窓会報をA4サイズに拡大、再編した。また、教育学部同窓会のホームページを立ち上げたことが大きな変化ですが、会報では、学部や学生の話も少しずつ掲載するなど、同窓会と学部との情報の拡大を図る試みも進めてきています。「間」という場を認識していく上からも、大学・学部の改革に伴う情報を、同窓会においても今後できるかぎり察知していく必要があり、会報やホームページの役割が今後ますます重要になってきます。

また、理事会や支部長会の前段で今日の課題を十分討議するため、常任理事会も新設しました。その第一回の会合では、現在の支部組織の見直しも含めた検討と近県に広がる新しい同窓会員を見据えた県外支部の新設に話題が集中しました。

多様な職種、職場に進出する同窓会員を視野に入れて、同窓会報を如何にもれなくゆきわたらせるかも今後の大きな課題です。

「教育学部の同窓会は元氣ですね」とささやかれる時、あらためて会員の多くの方々がこの組織を支えてくださっていることを痛感します。

ギクシャクしてきた時代に、わずかな潤滑油を注ぐ同窓会でありたいとの願いと共に、会員のみならずご家族の健やかな一年でありますよう祈ります。

目次

表紙	大倉 可貴
絵	元愛媛大学教育学部教授 菊川 國夫
ごあいさつ	(2)
「新しい年を迎えるにあたって」	同窓会長 奥定 一孝
心 響	(3)
「釈迦の弟子 周梨契特の如く 掃いて、掃いて、掃いている」	菅田 顕
学部の今	(4)
「地域から学び、地域に貢献する」	「愛媛大学総合地域スポーツ」紹介と参加募集
「ウォーキング教室」に楽しさを見つけた	「いま学部には新しい風が吹いている」
フレンドシップ事業活動紹介	一色 昭宏
表紙絵について	(7)
学園だより	(8)
「子どもたちから笑顔と元氣を」	附属幼稚園非常勤講師 樋口 綾子
「最近思うこと」	松山・北条小教諭 横田 玲子
「幼稚園から小学校へ」	東温・南吉井小教諭 谷田 真美
「本校の伝統」	喜多・五十崎小教諭 井上 理
「自然を満喫、水遊び集会」	西予・田之浜小教諭 中川 聡美
「閉校をむかえるにあたって」	南宇和・魚神山小教諭 松岡 竜彦
「綱引き、万歳！」	四国中央・川之江南中教諭 湯浅理恵子
「教員に向いていない？」	西条・西条東中教諭 渡部 晃浩

周梨槃特の如く
掃いて、掃いて、掃いている

菅田 顕

(昭三四卒)

今から約二十年前のこと、私は新米教頭として松山市立余土中学校に赴任した。その三年前、私は同余土中の教諭として三年生を送り出して転任していたので、意気込みも新たに肩をいかせて、再度の任地余土に赴いた。

私は始業式の早朝から、北の正門に立ち子どもたちを迎えた。しかし、私は、登校してくる子どもたちに、以前三年部の教員だったという自負とその傲慢さからか、形式的に「おはよう」の声かけと、登校時の服装等だけに目がいつて張り切つて注意と指導をしていた。それを約一ヶ月続けた。

ある日のことだった。久保田校長さんが、それとなく私に話しかけてきた。「菅田さん、最近子どもたちは家庭の事情で朝食も取らなかつたり、早朝から夫婦げんかを横目に見てきたりして登校してくる子が増えてきているぞな。それでも朝早く登校してくるのだからありがたいものじゃなあ。」と。私には、校長さんから禅問答を受けたような気がした。「子どもたちを朝どのよう迎えたいら

のか。」と私はとらえた。そして悩んだ。その矢先だった。学校の近くにお住まいの大先輩から、「用があるので、自宅までお越しくださいたい。」との連絡があった。早速放課後、ご自宅におじゃました。門に入り女園までの間だった。奥様がその通路を掃かれ、打ち水をされて私を迎え入れてくださった。その時、私はこれだ！と脳裏に電気が走った。明日からこれを学校でもしよう。翌日、早速実行した。それに当たり、「北の正門、西の通用門の道路とその周辺を無心に掃く。そして、子どもたちを自然体で『おはよう』と笑顔で迎える」ことを心に決めて、それを実行した。掃いていて、沢山のことに気がついた。恥ずかしながらそれまでは子どもの服装だけに目がいき、子ども足の足下をしつかりと見ていなかったからか、道路を含め学校周辺は、たばこや紙類等のほい捨てで荒れていることに愕然とした。

以後自分の信じることに従い、信念をもって北、西の通学門周辺を掃き続けた。このことを他校に転任するまで三年間続けた。その掃除から私には得るものが多々あった。それは、毎朝、出勤する人々が老若男女を問わず、私が、掃除している傍を通り抜けながら、簡単な挨拶や労をねぎらう声をかけてくださったこと。ポイ捨てもなく学校周辺が綺麗になつてきたこと。そして、挨拶する子どもの笑顔が増えてきたこと。それ以上に子どもからの通知票をいただいた。それは、三年目の時、いつも傍を通つて通学していた余土小六年生が、余土中に入学期、朝自主的に手伝つてくれたことである。たかが掃除、されど掃除である。



余土中から転任後も、私は学校での掃除を続けていたある時、釈迦の弟子周梨槃特(チューダ・パインタカ)の話に出会った。話とは、こうである。ある日、周梨槃特が自分の無能さを恥じ、ひとり悄然と涙を流して祇園精舎の門外に佇んでいた。そこを通りがかった釈迦がその姿を見られ、「嘆くには及ばぬ」と優しく声をかけられ、周梨槃特に一本の箒を与えられ、「塵を去り、垢を除こう」と唱えながら精舎の庭を掃くようにとさとされた。周梨槃特はそれから毎日、寒い日も暑い日も、雨の日も風の日も、釈迦の教えを守つて掃除に余念がなかった。その長い年月の後、「掃除とは、それを通しての心の塵心の垢、心の迷いを除くこと」であることを悟つたという。釈迦は又、その時、「掃除の五功德」を説かれた。その一つは、「自身清浄」(自分の心が清らかになる)ということ。その二は、「他心清浄」(他の人の心も清らかにする)ということ。その三は「諸天歡喜す」(この世の存在が生き生きしてくる)ということ。その四は「端正の業を植ゆ」(すつきりと美しい行為の種子がまかれる)ということ。その五は、「命終の後まさに天上に生ずべけん」(死後必ず天上に生を受ける)ということである。ところで、中国の古都・蘇州には有名な寒山寺があるが、その近くにある西園寺というお寺の境内の一角にある五百羅漢堂の中に、五百羅漢に囲まれて、片手に箒を持った周梨槃特の像が優しく微笑みかけ静かに立たれているとのことである。未だ悟れない私は、今も夕方になると、家の周りの道路を、今は亡き母に言われた「外を掃くときは、一間隣からお掃き」の言葉をかたくなに守つて、せつせつせつと掃き清めている毎日である。

- 「無言の教え」 今治東高校教諭 岡崎 愛
- 「元気の源」 松山・河野小学校長 替地 和人
- 放送大学四月入学生募集! (8)
- 結婚相談 (10)
- 朋友会館の利用案内 (12)
- 教育学部同窓会ホームページを開設しました (15)
- 原稿募集 (16)
- 師道鑽仰碑を訪ねて (18)
- 叙勲・受章 (19)
- 文芸 (20)
 - 短歌「木のやうに」 井上真佐子
 - 俳句「句集天銀杏より」 柴田 博
 - 川柳 加藤 明
 - 俳画「下手でいい」 田畑 温美
 - 「ふうせんかずら」 山口 恭子
 - 「漢詩」伊子長浜八景(二)豊嶋 睦
- 先輩を偲ぶ (23)
 - 故・森岡 教榮先生(毛)上甲 修
 - 追慕 毛利 運衛
- 同期会 (24)
 - 「南子とくらの会終りの記」牧野 光利
 - 「全員八十路にいたる愛媛師範」二十年同期会 柴田 教市
- お知らせ (26)
 - 愛媛大学校友会東京支部が設立された
 - 第十一回教育学部同窓会懇親会開催予定
- 同窓会第一回常任理事会会議報告 (27)
- 敬 申 (28)
- 会報発送と送料納付について (28)

学部の今



地域から学び、

地域に貢献する

「愛媛大学

総合型地域スポーツクラブ」

紹介と参加者募集中！

前号一〇四号でも紹介しましたが、現在、教育学部では、地域に立脚する大学という立場で、学校現場や地域社会とよりよい双方向的な関係を築き、様々な連携や交流をしています。その地域での活動に当たって、大学生も積極的に参加し、地域に貢献できる優れた人材の育成を目指しています。

今回は、そのうちの「愛媛大学 総合型地域スポーツクラブ」をご紹介します。

「愛媛大学 総合型地域スポーツクラブ」は、さまざまな年代の人々が、気軽にスポーツを楽しめる環境を整え、健康・体力づくりを支援するとともに、多くの人とふれあうことのできる場を創り出すこ

クラブの目的

とを目的としています。また、愛媛県におけるスポーツの振興と普及を図り、豊かで活力のある地域社会の実現に貢献することを目指しています。

総合型地域スポーツクラブとは？

さまざまな世代との交流がはかれ（多世代）、自分の好きなスポーツを自由に選べる（多種目）、いろいろなレベルの人が（多志向）、主体的に運営する（自主運営）クラブです。



クラブの活動

愛媛大学総合型地域スポーツクラブは、その目的を達成するために、**教職員、学生、地域住民**が連帯し、4つの活動を推進します。



子どもの健全育成を図る

成人の健康・体力づくりを図る

チャンピオンシップ
スポーツをサポートする

愛媛県下の総合型地域
スポーツクラブをサポートする

スポーツ教室の開催

参加者
募集中！

	対象者	時期・期間	場所
ウォーキング教室	小学生以上	4月～3月	道後公園ほか
テニス教室	小学4年生以上 成人の初心者	4月～7月 9月～12月	城北キャンパス
バレーボール教室 & 学習じゅく	小学生	4月～7月 9月～12月 1月～3月	城北キャンパス
成人スポーツ教室	成人	5月～9月 10月～1月	城北キャンパス
キッズ・サッカー教室	小学生	4月～7月 9月～2月	山越グラウンド
ホノルルマラソンランニング教室	一般成人	7月～12月	城北キャンパス 山越グラウンドほか
ダンス教室 ゼロポイント	ダンス経験者	6月～11月	城北キャンパス
学習とスポーツ	小学生 (4～6年生)	4月～8月 10月～3月	城北キャンパス
ペタンク	60歳以上	4月～6月 10月～12月	城北キャンパス



〒790-8577
愛媛県松山市文京町3番
愛媛大学教育学部

Tel & Fax : 089-927-8302 (月/水/金 13:00-17:00)
e-mail : ai-spo@ed.ehime-u.ac.jp
URL : http://www.ed.ehime-u.ac.jp/~ai-spo/



「ウォーキング教室」に 楽しさを 見つけた

十月の初旬偶然の出会いだった。「橋本岳人山（尺八）」「愛媛大学総合スポーツクラブ ウォーキング教室」の二つの見出しが入ったパンフレットが私の目を釘付けにした。

早速、主催者である最高責任者の杉山教授の研究室を訪ねていき、先生にお会いし、活動内容の説明とご指導をいただいた。第七回が、今月二十七日に実施すること、気軽に参加してみてもはとお誘いを受けた。

実施当日は、一般参加者などで、午前十時二十分に道後公園グランドで、十時に愛大グランドを出発した会員の皆様が到着するのを待った。予定時刻に、ゼッケンをつけた、男女合わせて十六名の学生さんと、十名余の一般会員の方が到着した。

直ちに、皆さん方、脈拍歩数等を確認し、記録担当の学生さんに報告していた。この時から、私の体験からイメージしていたウォー

キングとは異なり、何か新鮮みを感じた。

その後杉山先生から簡単な注意



等があり、間髪を入れずに、出発点を手際よく指示するやスタートの号令がかかった。



参加者は、公園内を平坦コース

三種類（マドンナ・坊ちゃん・赤シャツコース）、湯築城上り下りの起伏を含む山嵐コース三種類計

六種類のどれかを自分のコンディションに合わせて自由に選択し、

手際よくウォーキングしていった。十時五十分、スタート地点に

全員ゴールし、直ちに脈拍数、歩数を記録していた。記録完了後、公園内にある「上級武士居住区」跡地に移動した。

そこで、杉山先生プロデュースの橋本岳人山氏による尺八演奏会のミニコンサートに参加した。



鯛雲高く、爽やかな秋風の中に、カーペンターの曲あり、杉山先生との尺八のジョイントでの日本の秋の歌あり、岳人山氏オリジナルの曲あり、そして演奏のフィナーレは「千の風になつて」

演奏中私は、心がうきうきしたり、幼き時を思い出し少しセンチ

メンタルになったり、そして胸が何故か熱くなったりと、この短い一時ではあったが、私には充実した心癒される時であった。

お礼の拍手の後、私は「ウォーキング教室」最高！ブラボー」と呼びたい衝動に駆られた。

演奏会終了後は、再び、愛大グランドに帰り、再び脈拍数、歩行距離の記録そして感想文を記して解散した。

私は、参加してみて、楽しさの中に充実感を感じた。このような体験から『ウォーキング教室』こそ、広く同窓会会員を始め一般市民に呼びかけるべきだと思い、活動のほんの一端ではあるが会報で紹介した次第です。



【参考】

「ウォーキング教室」へ 参加申込方法

○申し込み方法：氏名・年齢・住所・電話番号・緊急連絡先（氏名・住所・電話番号）記入の上、左記の住所またはFAXへお送りください。

〒七九〇-八五七七

松山市文京町三番

愛媛大学教育学部

保健体育科

杉山 允宏 宛

FAX：〇八九一九二七

九四七三

○受付期間：随時受付

○問い合わせ：

TEL：〇八九一九二七

九四七三

（愛媛大学総合地域スポーツクラブ ウォーキング教室担当 杉山）

○対象：小学生以上の健康な男女
○内容：年十二回実施、ウォーキングテスト及び体力テストを行い、各自の体力に応じたコースを歩き、健康、体力増進を促進する。

（編集者 菅田）

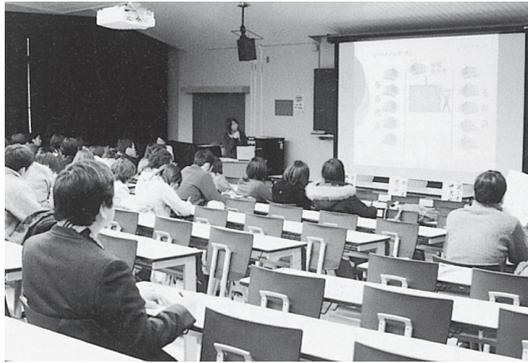
「いま教育学部に 新しい風が 吹いている」

いじめ対策講座

いじめ問題への対応を考えるシンポジウムの開催

いま、教育学部では、教育現場における現代的課題にも常に関心を寄せている。

平成十八年度には、子どもたちの間に広がっているいじめ問題について、一月に学生が主体となって「大学生教育再生会議」いじめ問題への私たちの提言」を、二月には、教育委員会等からパネリストを招いて、「公開シンポジウム『いじめ問題への対応を考える』」が実施された。



「坊っちゃん」とのランデブー

松山といえば、夏目漱石の『坊っちゃん』と切ってもきれない関係にある。愛媛大学も松山市にあるため、『坊っちゃん』と正面から教材化にもっとも取り組んでいるのが佐藤栄作教授を中心とした教育学部だ。

その活動として

「坊っちゃん」

百年シンポジウム

「坊っちゃん」

百年を記念して、

いろいろなイベントが愛媛大学で開催された。内外からの「坊っちゃん」に一言をもつ有名な文化人や研究者を一堂に集めたものや、卒業生や現場の先生を集めて、その教材化の方向を討論したものなど、その活動が明日の「坊っちゃん」を生み出すものと期待を集めている。



また、教育学部情報文化課程国際理解教育コース二回生柳原愛理さんの「『坊っちゃん』を教えてみて」の感想文に、

私が高校二年生の時に愛媛大学教育学部の福田先生の発案で、付属中の生徒に松山の歴史や文化を教えるという授業がありました。IT機器を使い、高校生が中学生に教えるという新しい取り組みで、そのオープン教室の様子はライブで全国発信されました。その経験がとても大きくて、そのまま教育学部へ進学を決めました。ちなみに、写真の右端が私で、「坊っちゃん」が福田先生、「マドンナ」が高校の皆川先生です。



フレンドシップ 事業活動紹介

二回生一色 昭宏

フレンドシップ事業は、生徒自身が参加してみたい活動を教育学部ホームページにおいて自ら登録し、大学近隣の学校や地域の活動にボランティアとして参加させていただく活動です。また、子どもたちや地域の方々とふれあいや体験を通して、学生自身が学習することを目的とし、愛媛大学周辺の学校関係者の方や教育学部の先生方のご協力により行われています。

私は、九月二十三日に行われた松山市立清水小学校の秋季運動会の補助役として、参加させていただきました。清水小学校には、私を含め七人の教育学部の学生が参加させていただきました。参加するにあたり、私自身ただ単に準備やお手伝いだけを目的とするのではなく、子どもたちと先生がどのように運動会という一大イベントを創りあげていくのか、運動会の流れの中で、大切なことはどんな



ことか等、子どもたちを見守り指導する先生方の姿から学びたいことがたくさんありました。大学で学んでいることを、実際の教育現場で確かめたり、教育に対する考えや視野を広げたりする良い機会となりました。

主な仕事として二十一日にテント設営、二十三日には運動会の競技種目の準備や片付けなどをお手伝いさせていただきました。テント設営やテント片付けは先生方や

高学年の子どもたちや多くの保護者の方々と共に行いました。特に子どもたちが作業へ取り組む積極的な姿勢にはとても驚きました。子どもたちからは、「すみません。ここを手伝ってもらえますか。」などと礼儀正しく話したり、熱心に作業に取り組んだりする子どもの姿に驚かされました。

自分が実際の現場でしか聞けない子どもたちの生の声を聞くことができ、また、子どもたちの様子を観察することもできて、非常に有意義な活動になったと思います。運動会当日は、競技に使う道具を子どもたちと一緒に準備をしたり、その道具の片付けをしたりしました。その中で運動会を創っている先生方の大変さを十分に観察できました。自分の仕事を忘れて

いる子どもへの代わりに準備に走ったり、競技の度に準備の仕方について確認・説明をしたり、そして、ふざける子どもたちの指導もしなければいけません。先生方は、一つ一つの活動ができればと無駄が無く、しっかりと子どもたちを把握していました。子どもたちや先生方の息づかいがすぐ側で聞こえる位置で一緒に活動できたことは、とても意義がありました。

運動会の最後には清水音頭を子どもたちと一緒に踊りました。全く踊りを知らなかったのですが、子どもたちに教えてもらいながらも楽しく踊ることができました。運動会をほんの少しお手伝いさせていただけですが、そのときばかりは、子どもたちと一緒に運動会を成功させたかのような満足感を感じることができました。また、子どもたちにとつての運動会の意義を、垣間見ることが出来たようにも思います。そして、改めて運動会が教師、子ども、保護者、地域社会が一体となって創り上げているものであることを再認識しました。



このような素晴らしい体験ができ、実践的で学びの多い活動が提供されているのが、フレンドシップ事業の良さであり、特徴であると思います。

表紙絵について

虫の聲（七草之図）



作者 大倉 可貴
(昭三三卒)

この絵を見た、若い女性が、「わあー虫の声が聞えてきそう」と言ってくれたこともあって、題名を「虫の聲」とした。

以前から、秋の七草を全部あしらって、澄み切った秋の情感を描いてみようと思つて、構想はめぐらしていた。

何に重点を置いて、どのように組み立てたら、七草の叢の裏側に潜む季節の閑寂な風趣が表現出来るか、何枚もスケッチをしてみたが、自信の持てるものには至らない。

好きな時に、好きなことが、好きな程できる幸せ、墨の香のほかに漂う部屋で「気韻生動」を求め続ける至福の時間を、できるだけ長く持ちたいと考えている。

略歴

昭33 愛媛大学教育学部卒業
平8 県教委指導部長退職

現在

生涯学習講座 講師

学園だより



子供たちから 笑顔と元気を



附属幼稚園
非常勤講師
樋口 綾子
(平五卒)

自園では三歳から五歳の子どもたちが、自分のしたい遊びを見つけて、主体的にかかわることを通して学んでいます。その日常の、ある風景をここに二つ紹介したいと思います。

子どもたちに誘われて砂場へいったときのことです。「穴掘ろうよ。」と四歳の男の子に声をかけられ、側にいた五、六人の子どもたちと一緒に穴を掘り始めました。「これ何が出るのかな?」と聞くと「温泉にしよう。」と、一つのイメージがつながり、温泉作りの始まりです。掘る役とバケツで水を運ぶ役に自然にわかれ、作業は進行していきます。少し高くなっているところから水を流してやると、水が砂を崩しながら勢い良く水路を作って温泉に注ぎ込

みしました。それを見ていた子どもが山を作っては、それが崩れる様子を楽しみながら水を注いでいきます。

掘り進めると掘った砂が大きな山になりました。それを見つけた子どもが今度はトンネルを作り始めたので、反対側から掘ってやると、また違う方向からも別の幼児が掘り進めてきました。「みんなが穴の中で手がつなげるかな。」と言いながらそれぞれに掘り進めていきました。

温泉作りの方はもう次の遊びに進行しており、そこは池になっていました。おもちゃの船がありました。たけ浮かんではいます。「船のおうちをつくらう。」と池の一部を掘り下げると、見ていた幼児がいくつか同じようなものを作り、船の基地だといって遊び始めました。山の方はトンネルがながってから、そのトンネルから道を伸ばし、おもちゃの車を走らせ始めました。車は池にも入り、船は陸にも上がり水陸の区別なく乗り物が走り回っていました。

毎日砂場では、いろいろな遊びが展開されます。水を流し入れたら、山を作ったり、深い穴を掘ったり、ままごと道具を駆使して、

レストランができたりと砂場は子ども豊かな想像力に、限りない創造性で答えてくれます。

また、ある場面では、数日前から保育室でマラカスに触れる機会があった幼児が「シヤカシヤカ音の出るマラカスやりたい。」というので、出してやると、近くで遊んでいた子どもたちが寄ってききました。「どんぐりころころ」やりたい。」というのでピアノを弾くと、みんながピアノの周りでマラカスを鳴らし始めました。子どもたちは私に次々にリクエストしながら曲に合わせてそれぞれ好きにリズムを打ったり、歌ったり、体を揺らしたりして楽しみました。「おぼけなんてないさ」を弾き始めたとき、おぼけという響きに反応した子どもも加わり、数人で顔を見合わせて同じようにリズムを打とうとし始めました。リズムが



そろい始めたころ、その数人は次第に足踏みもはじめ、マラカスを鳴らしながら鼓笛隊のように列になって行進することを繰り返し楽しみました。

始めはバラバラだった音がしだいにそろい始め心地よい音となり、それが友達と一緒に鳴らしているという一体感でそこにいるみんなが楽しさを共有できたように思います。いつもいつも楽しさを共有できるわけではありませんがこのような小さなかわりの積み重ねが、友達の存在に気づいたり、よりよい関係を作ったりする基礎になるよう、支援していきたいと思っています。

二つの場面からもわかるように、子どもたちは実に発想豊かです。環境から様々な刺激を受けて、新しい世界をどんどん見つけていきます。教師を含めた人的環境、素材や道具などの物的環境は、変化する子どもの発想に柔軟に対応するものでなくてはなりません。教師として、長期的視野を持ちつつ、日々目の前の子どもの一瞬一瞬を大切に、保育にあたっていくたいと思えますがまだまだ十分ではありません。毎日笑いの絶えない幼稚園という場所はとても魅力的です。かわいい子どもたちの笑顔に元気をもらいながら日々奮闘中です。

790-0855
松山市持田町五(二二)

放送大学 四月入学生募集!

放送大学では、平成二十年度第一期(四月入学)の学生を募集中です。

放送大学はテレビ等の放送を利用して授業を行う通信制の大学です。

心理学・福祉・経済・歴史・文学・自然科学など、幅広い分野を学べます。

働きながらの大学卒業やキャリアアップ、退職後の生きがい作りなど、様々な目的で幅広い世代、職業の方が学んでいます。

○ 十五歳以上の方なら、一科目から学習する選科履修生・科目履修生として入学できます。

○ 十八歳以上の大学入学資格をお持ちの方なら、無試験で全科履修生として入学でき、四年以上在学して

最近思うこと



松山・北条小教諭
横田 玲子
(平八卒)

● 祭りに思う

母校松山市立北条小学校に勤務して五年目になりました。本校区は秋祭りが盛大におこなわれる地域です。九月下旬になると太鼓や鐘の音が聴こえてきます。……といつても、新居浜や西条ほどではありませんが……。祭りの準備の時や当日には、普段学校では見られないような光景を見ることができま。それは、年齢、性別を超えた人と人との交流です。小学生のリーダーである六年生は、太鼓や鐘のたたき方を年下の子どもたちに優しく教えます。たとえ自分の練習中であつても幼児が近寄ってくれば頭をなでて場所を譲つてあげます。空いている時間には、鬼ごっこや抱っこをして幼児たちの面倒をよく見ています。寒そうにしてている幼児がいたら「寒いん？このハッピ着る？」と自分のハッピを貸そうかと声をかける子

もいます。どの行動も自然にできています。これは、代々受け継がれたものなのでしょう。中学生も高校生も社会人も一年ぶりの再会を喜び、世代を超えて談笑しています。このように自然に人を思いやれる子どもを地域の力で育てていきたいと思ひます。そして、人を育てる祭りの伝統を大切にしていきたいと思ひます。学校でも自分がやってみて楽しかったことを子どもと一緒にし、人と人との繋りの温かさを伝えていきたいと思ひます。

● 「ありがとう」で思う

最近、自分から「ありがとう」が言える子どもが減ってきたように思ひます。一人ひとり気持の優しい子ばかりですが、「ありがとう」をいう習慣があまりないように思ひます。少子化の影響なのでしょう。やってみたら当たり前であつたり、人にやってみたら……。人間関係が希薄になつていると感じることがあります。サザエさんや、ちびまるこちゃんの時代には、駄菓子屋のおばあちゃんと会話し、おまけなんかもらつてもらいながら、遠足のおやつ

を買い、最後にお店の人に「ありがとう」の一言を言つてもらつたのではないのでしょうか。考えただけでも、心がほつつかほつつかします。「ありがとう」をどんな時に言うのか指導しなければなりません。なんだか寂しい感じもします。生活化していくために自分にできることは何かを考えました。それは、私から心がけて「ありがとう」という素敵な言葉を使うことだと考えています。これなら簡単にできそうです。

● 特別支援学級担任になつて

昨年度から特別支援学級の担任をしています。年度当初は、とまどつてばかりでした。少人数での



学習なので、きめ細かい指導ができて当たり前だと、頭の固い私は結果ばかり考えて、焦つては悩む毎日でした。しかし、あるとき先輩の先生と話していて、「無理をしなくてもいいのではないか」「今できることをしていこう」と思えるようになってきました。肩の力を抜くと毎日は楽しくなりました。子どもたちはサーブス精神のおう盛で毎日必ず笑わせてくれます。日によつて調子は違い、集中できないような日もあります。笑いだけは忘れない子どもたちです。本学級の子どもたちは、たくさんの人に支えられて生活しています。また、それ以上にたくさんの人を癒し、幸せを運んでいます。私もたくさん幸せを運んでもらい、また命の大切さを学ばせてもらいました。子どもたちのおかげで、人と人は繋がっているのだと感じることがよくあります。もつともつと繋がりを広げていき、理解を深めてもらい、子どもたちが安心して暮らしていける社会に近づくように、自分にできることを見付け実行していきたいです。

(☎) 799-2430 松山市北条辻六四

百二十四単位を取得し卒業すると、学士(教養)を得ることができます。

○ 一つの分野を体系的に学びたい方には、「放送大学エキスパート」を実施しています。

さらに専門的に学びたい方には、大学院も併設しています。

資料を無料で差し上げたいです。お気軽にお問い合わせください。

資料請求・お問い合わせ先
放送大学愛媛学習センター
☎〇八九一九三二一八五四四
http://www.u-air.ac.jp

募集期間
十二月十五日～
二月二十九日

幼稚園から
小学校へ



東温・
南吉井小教諭
谷田 真美
(平十四卒)

私はこの四月に幼稚園から隣接する小学校に赴任しました。県下初の幼・小人事交流の第一号というわけです。異動を聞いた時、最初はとても驚き、動揺してしまいました。小学校に勤務した経験も、実習に行ったこともまったくありませんでした。しかも、組織や仕事の内容など、まったく違う世界に飛び込まなければならぬことが、大きな不安となって私の心を揺さぶったように思います。

しかし、一方で、子どもたちの小学校での生活をスタートさせる姿や、幼稚園を卒園後の学びや育ちが、小学校でどのように連続していくのかを自分の目で見てみたい気持ちが出てきたことも事実でした。

このようなことで、子どもたちが味わっている入学に伴う不安や緊張と同じくらい、いやそれ以上の不安と緊張を抱えたまま、私も四月を迎えたことを思い出します。現在、私は一年生二十八名の担

任をさせていただいています。忙しい毎日の中で、子どもたちや先生方の姿を通して、たくさんのごとを学ばせていただいています。

子どもたちにとって、小学校への入学は幼稚園・保育園とは違った経験をすることが多くなりま。例えば、遊びを通して学ぶことから、机と椅子が並んでいる教室での学習中心の生活への転換。また、チャイムで行動することなどもその一つです。このような環境やルールの違いが、子どもたちに大きな不安や戸惑いをもたらしているように思いました。四月のある日、「静かに座ろうね」と言った私に「チャイムが一番うるさいやん、先生」といった子どもの言葉からもその変化を敏感に感じとっている様子が分かりました。また、一学期は、学校に来るだけでしんどい様子で入り口のところでランドセルを背負ったまま寝転ぶ子、机から動かさずと下をむいたまま絵をかいていた子どももいました。これらの姿を見るにつけ、子供なりに自分の居場所や生活リズムを見つけようと、必死でもがいているように感じました。もしかしたら、教室の中でうろろする一年生がいるとしたら、その子は自分の居場所を見つけているのかもしれない。

こうした違いとは別に、子どもたちを中心に据え、子どもたちに

向き合う先生方の姿勢を見て、幼稚園と同じだと感じることもできました。また、子どもたちにとって、先生という存在の大きさも同じではないでしょうか。私自身、小学校を四回程転校した経験があります。そこでは、担任の先生との信頼関係が、自分の居場所となり、心の安定が図れたことを思い出します。先生とのつながりが感じられたクラスではすくになじめました。自分がなかなかなか出せずに終わった学校もありました。特に、幼年期の子どもたちにとっては「自分の先生」という意識や存在感が大きく、その瞳はまっすぐに教師に向かっていることを感じます。

今、クラスの子どもたちは、学校生活に少しずつ慣れ、自分の居場所や友達、楽しい遊びなどを見つけ、自分なりに学校生活を楽しんでいるようになっていきます。振り返れば自分自身が新しい環境に慣れるのに精一杯で、どのくらいの子どもたちと信頼関係を築き、向き合えているかなと反省しています。今後も、子どもたちや先生方の姿からたくさんのごとを学び、自分自身が成長できるように頑張りたいと思います。

（☎791-0303
東温市北方三二六三一
メゾン・ラ・セーヌ二〇二二）

愛媛大学・(財)白楊会館

結婚相談所・MCC

(Marriage Counseling Center) からお知らせ

結婚相談してみませんか

♡素敵な出会いを♡

皆様の幸せな結婚を願っています。どうぞお気軽にご相談ください！多数のお申し込みをスタッフ一同お待ちしております！

申し込み手続きについて

●申込書 MCCにある用紙にご記入のうえ、身上書一部を添付してください。なお、申込書については、MCCにご請求ください。

●写真二〜三枚。

(一年以内に撮影したカラーでサービス版程度のスナップが望ましい。)

費用について

●申込金一万円、諸経費二万円(三年間有効)、計三万円が必要です。

これについては、同封の郵便局振込用紙を使用して振り込み、領収書を同封してください。

なお、三年経過後の継続は、諸

経費の二万円を同様の方法で振り込んでください。

●お見合い費用は、双方のご負担と致します。

●結婚ご成立の際は、双方から二万五千円ずつ、計五万円をいただきます。

ご相談について

毎週水曜日

午後一時から午後五時まで

電話番号 (FAX兼用)

(089) 923-7210

愛媛大学・(財)白楊会館

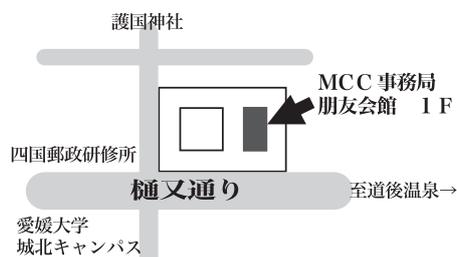
結婚相談所・MCC (Marriage Counseling Center)

T790-0825

愛媛県松山市道後樋又十番十三号

TEL (FAX兼用)

(089) 924-7910



本校の伝統



喜多 五十崎小教諭
井上 理
(平十五院卒)

本校に赴任し、今年で五年目となりました。大学を卒業して、何も分からないまま赴任してきたときは、教師であるという実感さえ湧きませんでした。たくさん子どもたちのおかげで、何とか今まで教師をやっていることができました。とても素直で個性豊かな子どもたちと過ごす毎日、いつも新鮮で楽しく、とても充実しています。

本校は全校児童百十名の小さな学校で、学校の北側には龍王と呼ばれる砦のある山、東側には美しい小田川があり、自然に囲まれたのどかな場所にあります。そんな中で育った子どもたちは、元氣いっぱいでのびのびとしており、

休み時間になると多くの子どもたちが、我先にと運動場に飛び出しています。それにつられて、先生たちもよく外で遊び、私も休み時間はいつも運動場で過ごしています。また、おいしい自校給食のおかげもあってか、子どもたちはよく食べます。学級によってはとても足りないところもあります。そんな活気ある本校に、伝統となっていることがあります。それは交通安全自転車大会です。自転車大会とは、学科テストと実技テスト（安全走行テストと技能走行テスト）によって競技されるもので、県大会で優勝すると東京で行われる全国大会の切符が手に入ります。本校は、自転車大会に参加するようになって、三十年になります。そのうち、地区大会に優勝し、県大会に出場した回数は二十九回で、現在十六連覇中です。県大会での成績も、平成十四、十六、十八年度が準優勝、十七、十九年度が優勝（全国大会出場）と、好成績が続いており、

県大会でも、一目置かれるようになってきました。毎年、四月になると、高学年の有志の子どもたちが、「先生、自転車練習やらせてください。」「今年はAチームに入ってみせます。」などと声をかけてきます。自転車練習（朝、昼、夕方の三回行われ、これもいつのまにか伝統になっているらしい・・・）に参加すると朝も早いし、昼休みもなくなるのですが、それでも希望者は後を絶ちません。年々、自転車大会に参加する学校も減ってきて、参加者を募集するのに苦労している学校もあると聞いていますが、そんな中、本校の子どもたちは自主的に参加を申し込んでくるのです。現代の子どもたちは、困難な場面に直面すると、すぐに諦めてしまふ傾向が強いと言われています。しかしながら、自転車練習に参加した子どもたちの多くは、途中でどんな壁にぶち当たろうとも「やる。」と言い続けます。指導する側としても、専門的な知識が

あるわけでもなく、上手な指導はできておらず、厳しすぎることもあるとは思いますが、決してやめようとは思いません。これは、やはり先輩たちのすばらしい業績のおかげだと思っています。勉強やスポーツが特に秀でているわけでもない子どもたちも、努力によって結果を残してきたということが、「ぼく、わたしにもできるはず。」と、自分の可能性を信じさせてくれるきっかけになっているのだと

思います。知名度も低く、競技人口も少ない大会で、周りから見れば「たかが自転車」と思われがちですが、子どもたちにとっては「それど自転車」なのです。「できる。」と信じることで、どこまでも自分が大きくなれる。そういう体験をこれからも大切にして、たくさん子どもを育てていきたいと思えます。

〒795-0301 喜多郡内子町五十崎甲
一四八五番地



自然を満喫 水遊び集会



西予
田之浜小教諭
中川 聡美
(平七卒)

本校は、全校児童十九名の小規模校です。田之浜地区は海に面しており、養殖業が盛んなところで、また、山の斜面にはみかんの段々畑が広がっています。児童の数が少ないこともあって、田之浜小学校では、いろいろな行事を全校で実施する機会が多く、児童全員がなかよしです。

一学期の終わりに、近くの横ハエ海岸で水遊び集会が行われました。この楽しい行事を紹介します。

集会を実施するにあたって、まずはじめに、全校での話し合いが行われました。水遊び集会でどんなことがしたいか、高学年を中心にして話し合いは進められます。どの行事の時も全校での話し合いをしているので、児童は意見をすすんで発表できるようになってきました。

ました。

いよいよ当日です。からっと晴れて今日は暑くなりそうです。先生方の諸注意の後、全員でシーカヤックに挑戦です。一年生も、高学年のお兄さんお姉さんと二人乗りのシーカヤックに乗って楽しそうです。毎年行っているおかげか、こぐのが上手な子がほとんどです。

次はいよいよ班ごとに分かれて飯ごう炊飯です。今年は、飯ごうを使って炊き込みごはんをつくりました。米や材料は学校でその日の朝高学年が準備してきています。かまどを作り、火をおこすのは少し難しいですが、どの班もがんばっていました。子どもたちは、いつもよりたくさんおかわりをし、おこげまでおいしくいただきました。

さて、腹ごしらえができたところで、飯ごうの後始末が終わった班から、自由遊びがはじまりました。海にもぐって、うにや貝をとる子、向こうの岩まで泳いで友達と競争する子、シーカヤックにまた挑戦する子、波うちぎわでばちやばちやと遊ぶ子、うきわの上



でリゾート気分ひたる子等。常に全児童数十九名いるか数えながら、楽しそうな子どもたちの様子をみてみると、「暑いけれどがんばらなくちゃ。」という気になります。そして、陸の上では次の行事の準備が進んでいます。

宝さがしでは、砂浜のどこかにさしてある旗をさがしてきて、商品と交換です。

最後のお楽しみは、すいかわりです。この行事のために、田之浜小には、すいかわり用バットまであります。目隠しをして、三回回ってスタートです。みんなが「右よ。」

とか、「左よ。」とか、「まっすぐ。」とか教えてくれるのですが、目隠しをした子は何が何だかわからなくなっています。低学年の子たちは、おしいなあというところで終わってしまいました。高学年になると、ちゃんと友達のアドバイスを聞き、力を込めた一撃をすいかめがけて「えいっ。」と振り下ろすことができます。やっとするかのおいしそうな赤い部分のみえました。のどもかわいていたので、みんなが食べるすいかの味は格別です。

最後の閉会式となりました。意見発表では、一年生から六年生までの子ども「楽しかった。またやりたい。」という思いをもつたようです。準備物の運搬等、たいへんな面もありますが、ぜひ子どもたちのために続けていきたい行事です。

海の幸たっぷりの西予市明浜町にぜひいらっしゃってください。

(☎) 797-0203
西予市明浜町宮野浦
一〇四五

朋友会館の 利用案内

一、申込み方法

(1) 宛先

〒790-8577

松山市文京町三

愛媛大学教育学部

同窓会事務局

TEL 089-927-9383

学務チーム内同窓会係

(2) 方法

電話又は、はがき等文章でも可。但し、同大内の「財務部財務企画課総務・照査チーム」作成の申込書(使用許可書)に必要事項を記入するため連絡方法を明記してください。

(3) 申込期間

余裕をもって申込みと確定、少なくとも五日前までに

二、利用資格

大学の教職員及び同窓生

三、利用施設

●会議(大小四室)・会食

●宿泊(ツイン四室、シングル八室、和室八畳、十畳各

一室)

四、食事・料理

料理、飲みもの共に可能

閉校をむかえるに
あたつて



南宇和
魚神山小教諭
松岡 竜彦
(平十卒)

「先生閉校までおつたらええわ。」
「そうですね。じゃあ、その日ま
でよろしくお願いします。」

今から五年前、保護者の方と何気
なくかわした、いや冗談でかわし
たこの会話が本当になる日が近づ
いてくるとは、あの時は夢にも思
いませんでした。教員生活十年目
という節目の今年度、本校も大
きな節目を迎えることとなりまし
た。十九年度末をもって閉校とな
り、隣の学校と統合するのです。
そんな年にこの原稿を引き受けた
以上、一番の使命は本校をPRす
ることでしょうか？

愛南町立魚神山小学校。まずは、
一番に押さえること、それはやつ

ぱり校名です。「魚神山」が「な
みやま」と読みます。愛媛県の最
南端愛南町の由良半島の中腹に位
置する本校は、豊かな自然に囲ま
れたへき地小規模校です。全校
児童は十二名、二十四の瞳なので
す。グラウンドのすぐ横は、この
地区を支える真珠母貝養殖をはじ
め、豊かな恩恵を受けている大き
な海が広がっています。ちよつと
潜れば、シリダカ・ニナ・ニガニ
シなど大漁です。(子どもたちよ
りも一部の教師の楽しみになつて
いるという噂もありますが…)こ
のふるさとを舞台に日々の教育活
動が展開されています。手作りい
かだレースをしたり、魚のさばき
方を教えてもらったりする海体験
学習。子どもたちが地域全戸を回
り、企画から当日の運営まで行う
三世代交流会。全ての活動が、ふ
るさと魚神山の人や自然に支えら
れています。(まだまだ書きたい
ところですが、行数もかせいだこ
のあたりで…)

い限りですが、教職員の共通理解
として『閉校という特別な一年で
はあるが、子どもたちにとっては
特別な一年ではなく、今年も大切
な一年だ。』という意識で四月の
スタートを切りました。子どもた
ちにとつて大切なことは何か、こ
のことを考えられたことは本校六
年目を迎え、いい意味でも悪い意
味でも学校に慣れてしまつてい
た自分にとつても、いい機会でし
た。考えた結果、『ふるさとを愛
する心』を育みたいと思い、今年
度は総合的な学習の時間を中心に
今まで以上に地域を見つめ・地域
に出かけ・地域とふれ合うことに
しました。この地を切り開いた魚
神山の偉人・浦和盛三郎氏を調べ
るグループは、今から百三十年以
上も前、浦和さんがこの網代の海
から、遠くイギリスを見据えてい
たことを知りました。浦和さんに
負けない大きな夢を抱いてほしい
と感じた瞬間でした。魚神山の今
昔で、段々畑を調べるグループは、
積み重ねられた石の数を調べた

り、段々畑の良さを調べたりする
中で、昔の人々の苦労や知恵に目
を向けていくことになりました。
地場産業である真珠母貝養殖業を
調べるグループは、その仕事にた
ずさわるたくさんの人々の思いを
感じ、今の自分たちにできること
を考えていくことになりました。
今の段階では、この総合的な学
習の時間がどのようになるかは分

かりません。この総合的な学習の
時間を通し、子どもたちの心に何
が残るのかを楽しみにする反面、
その結果が出るときは、この魚神
山小学校が閉校になるときとい
うさみしい思いも抱きながら、あと
半年を大切に過ごしていきたいと
思います。

☎798-3707
南宇和郡愛南町

魚神山二〇二





四国中央
川之江南中教諭
湯浅理恵子
(平十二卒)

新規採用から四年目を迎えました。今年は二年生の担任をさせていただいており、毎日子どもたちとともに表情をクルクルと変えながら過ごしています。

つい先日体育祭が終わりました。今年の体育祭は子どもたちに感動させてもらうことが多いものでした。

まずひとつは、最後の学年練習の女子団体競技の中で見せてもらいました。自分たちが決めたルール「長縄を女子全員で連続一〇回跳ぶ」を何回失敗してもあきらめず、やりきろうとしている姿、何回やっても失敗して、最下位が決定した後もあきらめず声を出し、頑張ろうとする姿、それを応援して一緒に数を数えている他のクラ

スの姿を見ることができました。こちらが言わずともその姿を見せしてくれたことに感動し、子どもたちの成長と、順位だけでは見えてこない競技のすばらしさを感じることができました。

男女団体で行った種目は誰もが一度は経験したことのある「綱引き」です。五クラス総当たりのリーグ戦で行われ、どのクラスもいろいろな作戦を練り練習を重ねてきました。私のクラス一組は、練習ではどうしても三組と五組に勝つことができませんでした。子どもたちと相談しながら並び方やかけ声、引くタイミングなどを考えました。学級練習では、ケヤキの木に綱を縛りつけてみんなで綱を引いたりもしました。

中には、「しんどい、めんどい」と言っている気を出さない子どももいました。しかし、終わりの会などで学年練習の女子団体の競技で自分が感動したことを話し、「一生懸命やることのすばらしさ」を伝えていきながら、当日を迎えました。

体育祭当日は、あいにくの曇り空、いつ雨が降り始めてもおかしくない状態でのスタートでした。予行演習の時、二組は男子団体、女子団体どちらも一位で負け知らずでした。しかし当日はどちらも

最下位。でも、誰かを責めることなく、一人一人が個人走で挽回しようとして努力し、綱引きまでに順位を二位まで引き上げました。「綱引きの順位次第ではトップの五組に近づける、追い越せる。」

「昼休みの間に降った雨でグラウンド状況が今までとは違う。これをチャンスととらえて勝負！」そんな気持ち子どもたちに芽生えていたのかも知れません。私もクラスカラーの赤旗を力いっぱい振りながら応援しました。子どもたちもどろんこになりながら懸命に引っ張りました。

総当たりの最終戦が対五組。子どもたちも私もさらに気合いが入ります。残った力をすべて込めて引きました。段々と子どもたちが後ろに下がりはじめた時、勝利を確信しました。

結果は五組に勝利。一番先頭で

引っ張り、練習中も一度も手を抜かず頑張っていた男子は地面に倒れ込み、空を見上げて泣いていました。女子の中にも泣いている子がいました。私の目にも涙があふれていました。

今まで勝てなかった三組と五組に勝てたこと、子どもたちがいろいろと悩んでいたこと、私自身も自分の技量のなさに悩んでいたことを思うと、涙が止まりませんでした。

綱引きは子どもと私の気持ちもグッと引き合わせてくれたように思います。何かに本気で取り組んで一緒に泣ける。そんなことができるのは本当に貴重で素敵な事だと思えます。これから何年先になつたとしても私はこの瞬間を忘れることはありません。



体育祭が終わった後、担任同士で話している時、綱引きの話で持ちきりでした。勝ったクラスも負けたクラスも口をそろえて言う言葉は、「綱引きはやっばりおもしろい！」です。どの担任も私のように綱引きが子どもと担任の気持ちを引き合わせてくれたと感じたのかも知れません。

「綱引き、万歳！」
(☎) 799-0405 四国中央市三島中央

三丁目一三一―二



西条 西条東中教諭
渡部 晃浩 (平六卒)

高校生の時のことである。ある時間に進路適性検査を行った。質問に答えていき、最後に自分の希望する職業を書いた。まだはつきりした希望ではなかったのだが、わたしは「教員」と書いた。後日返ってきた結果には、「あなたの適性で教員はランキング十二位。教員には向いていません。研究者等自分一人で黙々と取り組む仕事に向いています。」このように書いてあったと記憶している。ところが、自分の希望を否定されたにもかかわらず、正直あまり驚かなかった。人と話すことが苦手なわたしにとってはむしろ当然の結果とも思えた。

現在わたしは、向いていないと言われ、そのことを自覚すらして

いる教員になり、十四年目となった。不思議なものである。とはいえ、振り返ってみるとこれまでの教員生活は自分の適性に対する葛藤の連続であった。まず、採用試験を受けるとき、自分のような人間が本当に教員になってよいのかずいぶん悩んだ。教員とは？学校とは？自分には何ができるのか？眠れぬ毎日だった。自分に自信を持てず、責任の重さに耐えかねて、採用試験を受けるのをやめようとも一時期は真剣に考えた。初任者の年の三学期には生徒からこんなことを言われた。「先生やる気ないんやろ。」ショックな一言であった。毎日遅くまで教材研究をし、精一杯授業をしているつもりであったが、生徒には気持ち伝わっていないかったのだ。初任者からの三年間は本当にうまくいかなかったの連続だった。理想と現実の間で自分を見失い、精神的にもかなり参っていた。結婚を機に転任した二校目では、「授業がよくわかる。自信のある教科だ。」という声をもらえるようになった。教科以外にもたくさんの経験をさ



せてもらい、教師になってよかったと思える瞬間を何度も味わわせてもらった。しかし、不安であった。幸せな今は自分の成長によって得たものなのか？単に周りに恵まれただけではないのか？転任希望を出し、受け入れていただきたい三校目では、成長を実感できる部分がいくつもあつたが、やはり力不足を痛感させられた。まだまだ自分はまだだと落ち込むことも度々であった。

ないですか。でも、あきらめずにやりましょう。」肩の荷がすつと下りたように心が楽になった。これまでではうまくいかないことがある度に、もつとしつかりしなくてはと自分を責めていた。視野が狭くなってしまい、ますます深みにはまっていた。しかし、「がんばらなくていい。」そう思うと幾分ゆつたりした気持ちで現状を見られるようになった。

「教師としての適性があるか。」と問われると、今でも「はい。」とは言えない。それでも、子どもたちと心が通じ合ったときの感動を知ってしまった以上、この仕事はやめられない。作曲家の神津善行さんは、「才能がないからといって駄目だと決まったわけでもない。才能を作ることだってできるのさ。」と言っている。これからも失敗の中から学び、一つ一つ成長していきたい。

ある日のこと、同僚の先生からこんな言葉をかけてもらった。「そんなにがんばらなくていいんじゃないですか。でも、あきらめずにやりましょう。」肩の荷がすつと下りたように心が楽になった。これまでではうまくいかないことがある度に、もつとしつかりしなくてはと自分を責めていた。視野が狭くなってしまい、ますます深みにはまっていた。しかし、「がんばらなくていい。」そう思うと幾分ゆつたりした気持ちで現状を見られるようになった。

ある日のこと、同僚の先生からこんな言葉をかけてもらった。「そんなにがんばらなくていいんじゃないですか。でも、あきらめずにやりましょう。」肩の荷がすつと下りたように心が楽になった。これまでではうまくいかないことがある度に、もつとしつかりしなくてはと自分を責めていた。視野が狭くなってしまい、ますます深みにはまっていた。しかし、「がんばらなくていい。」そう思うと幾分ゆつたりした気持ちで現状を見られるようになった。

一五六―四五

<http://www.ed.ehime-u.ac.jp/~dosokai/>

dosokai@ed.ehime-u.ac.jp

教育学部同窓会
インターネット
開設しました！

メールアドレスは上記

お問い合わせ、会報への寄稿、住所、勤務先変更などの諸連絡にご利用ください。お待ちしております。

教育学部同窓会
ホームページ完成！

URLは上記

支部活動、会合、イベント等のスケジュールなど、タイムリーに情報をお知らせします。
同窓会員同士の交流を深めるために、できれば、掲示板を設ける計画です。

無言の教え



今治東高教諭
岡崎 愛
(平十六院卒)

「理想の教師像とは？」

この質問をされると、瞬時にイメージされるものがある。屋久島の縄文杉のような古い大木である。

樹齢何千年という時間を生き続けている「いのち」の存在を思うと、魂が大自然に帰ったような安らぎと平和を感じる。そこには無言の教えがある。

日々、生徒たちとかかわる中で、いかに「教える」ことが難しいか痛感させられる。知識を与えることは曲がりなりにできても、実利主義が横行し、公共のマナーや倫理観が希薄になっている社会の中で、人としての「徳」を導いていくことは大変難しい。

平成生まれの生徒たちにとって、私たちの昭和は遠い時代である。かつて、人として恥ずかしいことを叱ってくれる大人が周りにいた。叱られながらも畏怖の念をもって、彼らから社会の厳しさを人としての「徳」を学んだ。自分に非があつて叱られているという実感があつたから、叱られ方が自然と身に付けられた。

しかし、ゆとり教育の中で叱られることもなく育てられた生徒の中には、自分の非で叱られているという実感に乏しい子も見受けられる。自分の非を責められることは誰でも辛い。しかし、それを乗り越えた時、人間的な成長がある。ところが、責任転嫁したり、臆病な自尊心を守り続けたり、自分に向き合うことをいつまでも回避していると、成長の機会を失ってしまう。

生徒たちとかかわる中で最も憂慮していることは、生徒たちが自分と真剣に向き合おうとしないこと、つまり自己と対話しようとし

ない姿勢である。連日報道される悲惨なニュースを見ても、自己中心的で利根的な衝動から至ったものも多い。そのようなニュースを見るにつけても、自己と向き合い、真剣に考える力の育成が重要であると強く感じる。考えるべき時に考えないで、後に苦しんでいる若者の姿は大変悲しい。

日々の教育実践の中で、まずは、生徒たちが自分と向き合える時間を確保することから始めている。学習態度が悪く、指導の場に呼ばれた生徒たちは、決まってあてふてしい態度で訪れる。そして、どうして自分たちだけが指導されるのかと責任転嫁する。時間はかかるが、そんな彼らの思いや弱さを受け止めながら、一人の人間としての自分について真剣に考えてもらう。生徒としてどうなのか、社会に出た時どうなるのか、人として幸せなのか……と視野を広げながら、納得できるまでとことん話し合う。立派な話はできないが、「答え」は生徒の内にある。「感

じる」心の眼でみる」ことが鍵になる。生徒たちが少しでも利根的な生き方を捉え直し、自分のこと、他者のことを真剣に考える機会になればと考えている。

私の理想の教師像は、無言の教えができる存在である。それを思うだけで教えられ、その場にあるだけで人として大切な何かを伝えられる存在である。目の前の生徒たちには、今一番、有言の教えが必要である。周りの大人の生き方が生徒たちの善悪の基準になるのなら、正しいことを言葉で伝えていかなければならない。言葉を超えた教えができる存在を、人は「プロ」、さらには「神様」というのかも知れない。「プロ」になれるように、日々、誠実に生き、心を耕しながら、美しい年輪を重ねていきたい。



原稿募集

次号 第一〇六号
短くても結構です。多くの方々のお気軽な寄稿をお待ちしております。

◇ 「今、教育に思うこと」を特集します。ふるってご投稿下さい。

★ 同期会や支部同窓会などの集会や活動について

★ 恩師・先輩・同僚の訪問や思い出について

★ 職場の近況や所感や活動について

★ 文芸(随想・俳句・川柳・短歌・詩等)について

★ 会員便り
1 旅行記 4 この頃思うこと
2 季節便り 5 忘れ得ぬ人など
3 教育雑感

※ 投稿が多数になった場合には、編集委員会で選ばせて載せますので、ご了承ください。

◇ 原稿メ切 四月三十日
発行 七月一日 予定

★ 字数
依頼者以外は千二百字厳守

四〇〇字詰原稿用紙の一行を十五字にして書いて下さい。

★ 写真
筆者の顔写真を添付してください。別に内容に関連した写真もあれば送ってください。

元気の源



松山・河野小学校長
替地 和人
(昭四九卒)

「三丁目の夕日」という映画に心動かされたことがあります。昭和三十年代の東京タワーが建設されるころの東京の下町の様子を描写したものです。登場人物に両親や自分の当時の様子をだぶらせて子どものころを思い出しました。もうすぐ続編が見られるということで、楽しみにしています。暮らしては豊かではなかったけれど、夢や希望あふれるころでした。映画を見て元気がわいてきました。

現在教職について頑張っているわけですが、愛媛大学教育学部の四年間はまさに私の教職の元気の源になっています。私は小学校課程にいたわけですが、教養部の一・二回生のころより、希望すれば専門課程も受講できるということで、国語・国文学を希望して単位をとっていました。当時の国語教育の分野には、補導教官になっていた蒲池文雄先生をはじめといたして、渡辺勝巳先生、浅海蘇山先生、長谷川孝士先生、伊井春樹先生、柳田征二先生とそうそうたる先生方がおられ、学業の面ばかりでなく、いろいろな面において指導してくださいました。国語・国文学室には安岡チエ子さんという事務員さんがおられ、この方にもいろいろな面倒をみていただきました。懐かしい思い出です。国語科教育を語るときにいつも思い出すが、中学校一年生の学級担任だった橋本真理子先生のことです。若く情熱的だった先生に導かれて愛媛大学を目指したような気がします。大学で出会った仲間にもたくさん元気をもらいました。そういえば大学卒業のときに、卒業記念に文集を作ろうという話もちあがり、「文京町三番地」という文集を作ったことを思い出しました。ガリ版刷りの文集

だったと記憶しています。同期の方でお持ちの方は連絡してほしいと思っています。

今の元気の源といえば、子どもたちや先生方の笑顔です。河野小学校は、高縄山を東に望み、瀬戸内海を西に、山と海に囲まれた自然環境に恵まれた学校です。総合的な学習の時間や、社会科の授業で活用している「ふるさと河野」の副読本に「替地」の文言が出てくるので、私のルーツはこの地にあるのではないかといろいろ調べています。校区は源平の合戦で活躍した河野水軍にゆかりの「河野氏発祥之地」の石碑がある善応寺をはじめとしていろいろな歴史遺産から中江藤樹の逸話まで残っている文化の香り高い土地柄です。子どもたちと共に町探検やふるさと河野の研究にいそいそしています。最近の大きな出来事としては、本校の卒業生である「土佐礼子」選手が来校され、感激しました。小学校時代の思い出は高縄登山とすることで、自然とのふれあいは、いつまでもたっても心に残るものな

んだらうとの思いを強くしました。私も、去年の遠足で六年生といっしょに麓から登りました。朝早く出て昼食時間はわずかにとってすぐ下山というあわただしさでした。学校にたどりつくころには夕日が瀬戸内に沈むのが見えるという強行軍でしたが、思い出深い学校行事でした。これからも、子

どもたちや先生方にパワーをいただきながら、元気を出して頑張っていくつもりです。

〒791-8036 松山市高岡町八七一七



愛媛の教育道統確立と
継承を呼びかける
師道鑽仰碑を訪ねて

しどうさんぎょう
師道鑽仰之碑文

人ノ師タル者ハ須ク厳毅ニシテ寛仁達識ニシ
テ清高ナルヘシ毫モ鄙吝陋劣ノ心志アルヘカ
ラス然シテ子弟ヲ教フルニ性ニ隨ヒ材ニ應シ
テ各其ノ徳器ヲ成就セシメンコトヲ要ス 是
先師山路一游先生カ躬ヲ以テ垂訓シ給ヘルト
コロ我等先師ヲ鑽仰スル者宜シク斯道ヲ繼紹
シテ教学ノ興隆ニ務メサルヘカラス茲ニ勅シ
テ以テ人ノ師タル者ノ戒トナス

人の師として力を尽くし守るべき道
人を教える立場にあるものは、厳正であり、しかも、心が広く思いや
りがあり、広い学識を持ち、心が清らかで優れた人格をもたねばならな
い。少しでも卑しく劣る心があつてはならない。そして、子供を教える
場合、それぞれの性格に沿い、才能に応じて、一人一人の持つ人格や才
能を十分に伸ばさなければならぬ。このことは、前代の賢人山路一游
先生が身をもつて示して下さった教えである。私ども前代の賢人山路一
游先生の学徳を尊ぶ者は、この教えを受け継ぎ、学校教育の発展に務め
なければならぬ。そのことをここに刻んで、人を教え導く者の戒めと
する。

「師道鑽仰碑」が三カ所
に建立されている



「なにもなにも焼け失せにける校
庭に、師の君讃う石ぶみ一つ」

颯々子

昭和二十年七月二十六日深夜、
松山市はアメリカのB二十九爆撃
機空襲で一夜にして一面焼け野
原となった。勿論、愛媛師範学校
も惨憺たる広漠の地と化した。し
かし、その焦土の中にあつて、昭
和十二年一月に建設された「師道
鑽仰碑」が凜として立っていたと
いう。

終戦後の混乱の中にあつて、教
育の荒廃を憂い、師道の確立こそ
日本国再建への礎と希う大勢の先
輩方のご努力で、昭和四十六年三

月に教育学部構内の内庭に見事に
移建され、今は厳然とした佇まい
で、巣立ち行く者たちへの師道の
訓えを示されている。

松山市より国道十一号線にの
り、東温市の重信橋手前を左折す
ると樋口地区に入る。山之内方面
に二キロメートル行くと

大和神社

山路一遊先生歌

林先生頌徳

と書かれた写真のような石の道標



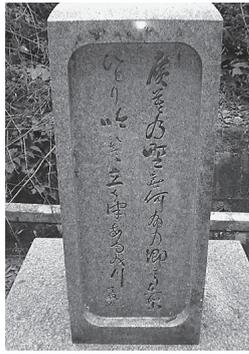
に出会う。

案内に沿い山道を登っていく





そこには、また、



と、正面に二柱の石門が目に入る。写真にあるように、門に入り真つ直ぐ奥まったところに清高な姿をして「師道鑽仰碑」が立っている。その傍に昭和五十年六月一日、竹葉秀雄先生によって建立された、山路一遊先生の歌碑「広莫の野 無何有の郷ここに在り ひとり吟いて 立ちつあゆみつ」がある。

この顕彰碑は、昭和五十七年五月二日、林先生顕彰碑期成会の代表者が、山路先生、林先生の碑が揃った前に集まり、両先生のご遺志である、師道の確立の継承、発展を目的とした会「師道鑽仰会」設立をご報告したが、その代表者の一人でもあり、林傳次先生の教え子の一人でもある野中三郎先生

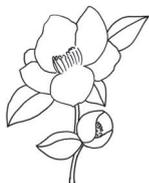


「わが教え子 わがすべて」(林傳次先生遺稿集『把翠』より)の顕彰碑が、林伝次先生の教え子達によって、昭和五十六年四月二十五日に建立されている。そして、深閑とした杉木立の中に、厳とした佇まいで来訪者を静かに迎えてくれる「師道鑽仰碑」がある。

梅本新吉先生方が落成に当たり、「威風堂々の文教会館はできた。今後はここに愛媛教育魂を盛り上げ、ゆたかな人間性の涵養のために師道鑽仰碑の精神を体得し、実践に渾身の努力を捧げなくてはならない。そのため、教育実践者としての教師は、碑を道標自戒の鞭としたい。」として、この「師道鑽仰之碑」を建立された。

の遺言に基づき、家族の方によって建立された顕彰碑である。「松に菊 古きはものなつかしき」 正岡子規 この句碑の傍らにあつて、愛媛教育のために今を生きる人々を日々迎えている「師道鑽仰碑」が、エスポワール愛媛文教会館玄関前に立っている。昭和四十八年二月七日、愛媛県教育会が愛媛教師の活動の拠点として、道後祝谷の地に「愛媛文教会館」を落成させた。多難を極めた会館建設に心血を注いだ川上教視先生、一色要先生、

師道を志す者が教育の原点に帰ろうとするとき、是非この三カ所にある顕彰碑を訪ねてほしいものである。



我々の教育の先達も歩き、今を生きる教師も歩んでいるこの師道、孜々として老すれば若人が続く永遠の道。愛媛の教育者は今日までこの師道に生きようと努力している。



祝・叙 勲

(平成十九年十一月三日)

☆瑞宝双光章

教育功勞 岡 省吾 殿

東温市田窪一六一八一―一 昭三十二年卒

教育功勞 上杉 武 殿

八幡浜市古町一―五―一九 昭三十四年卒

教育功勞 安川 俊二 殿

松山市南高井町一四〇―一―二 昭三十四年卒

教育功勞 山本 宗一 殿

伊予郡松前町神崎一〇六二―三 昭三十四年卒

教育功勞 片岡喜代見 殿

松山市西長戸町三五七―二 昭三十五年卒

高齡者叙勲 松本 嘉穂 殿

八幡浜市新和田三 昭十四年卒

高齡者叙勲 亀井 英男 殿

伊予郡砥部町北川毛八六六 昭十五年卒

川柳



加藤 明
(昭十七卒)

勢いがつくと相手が小さく見え

真ん中で音掻きまぜているタクト

お雛様喋ればきつと京訛

風が出て帰りにかけると釣れはじめ

家を出る勢いほどは釣ってこぬ

かき氷どこから攻める天こ盛り

騙されたとばかりは言えぬ欲の皮

広辞苑いつ挟まった蚊の死骸

留め袖の妻にほんのりある魅力

人相が良いのか道を又聞かれ

それとなくソフトにさぐる初対面

警察の隣も下見する空巢

火に油注ぐこどもの口答え

暖かい胸を知らない哺乳瓶

石地藏石屋を出ると拜まれる

(☎) 797-0020 西予市宇和町久枝

(三八八)

俳画

下手でいい

田畑 温美
(昭二九卒)

光源氏は陰暦の十月「紅葉賀」(七帖)で冠に紅葉を差し又菊を差して「青海波」を舞ったと言います。季節を愛で楽しむ古え人の雅が匂うようです。繊細な日本の文化は四季の変化の中で育み磨かれてきたのだなあと深く感じます。

花・鳥・風景・野菜等身の廻りの物に季節の移ろいを感じて心の赴くままに描きながら癒されている自分に気づきます。

「下手でいい」の言葉に魅せられて始めました。がやっぱり上手に越した事はないと思います。

風のように捕え難いのですが、画・句・書が響き合って無理なく一つになる事を願って時には自己満足の幸せも味わいながら伸びのびと続けていきたいと思っております。

(☎) 790-0911 松山市桑原二一(二一五二)



ふうせんかずら

山口 恭子
(昭四八卒)

誘われて、何も考えずに入ってしまった俳画教室。もともと絵を描くのは好きだったのだが、うん、奥が深すぎる。

先生と同じ筆・墨を使い、同じ紙に描くのだが、先生は魔法使いのよう!!感嘆・感動の連続。私には高尚すぎる世界だが、無になれる時間を大切にしたいと思う。

行灯仕立てのふうせんかずらが今年の猛暑にもめげず、いくつもの実を涼しげにつけていた。「窓下有清風」しばし暑さも忘れ、画に没頭した。



漢詩

伊予長浜八景(一)



豊嶋 睦 (昭二卒)

1 西村兵太郎氏の銅像に
よる
過る

昭和十年の長浜は、提灯行列や旗行列など、お祭りモードにまつまれた一年であった。四月には、竜宮城を思わせる県下唯一の水族館と新海水浴場の開設、八月には、肱川河口に架かる日本で初めての跳ね上げ式開閉大橋の架設完成、そして、十月には、国鉄予讃線開通の祝賀というように。まだ小学校三年生の私だったが、今も尚、当時の活気に満ちた長浜町の面影が脳裏に残っている。

この長浜町発展の原動力であったその人こそ、時の町長西村兵太郎氏であった。同氏は、「町の発展は海を制することから」として、長浜港湾の改修を進められつつ、

水産行政・漁村改革に大きな才覚を發揮されたのであった。

しかし、昭和十年、町躍進の祝賀行事の最中、九月十三日であったが、流行性脳炎により急逝されたのであった。悲しみに暮れた町民は、その功績を称え、氏がこよなく愛されてきた海辺の松林の中に、氏の在りし日を偲ぶ銅像を建立したのであった。

伊予灘を渡ってくる潮風は、今も尚、郷土長浜の先覚者西村兵太郎氏の功績を称えるかのように、松林を吹きぬけている。

過西村兵太郎氏銅像

仰瞻銅像 海浜瀨
風戯青松 画景新
曾起港湾 還水運
今称郷土 俊英人

【平起・真韻】

仰ぎ瞻る銅像 海浜の瀨
風は青松に戯れて 画景新なり
曾て起す 港湾 還た水運
今称えん 郷土 俊英の人

○西村兵太郎氏

・明治17年3月30日、西宇和郡神松名村に生まれ、昭和10年9月13日鴻業半ばで逝去。
・31歳(大正3年)で長浜町長

に当選、52歳(昭和10年)逝去のその日まで、5期21年5ヶ月間、町長職に当たる。

その間、
愛媛県議会議長
民政党支部長
帝国水産会評議員
等兼職。

○画景一画のように美しい景色。
○俊英一才知が人よりすぐれて秀でていること。



先覚者・西村兵太郎氏の銅像

2 亀の首公園

長浜は、肱川の三角州上に発達した町、そして、背後にある小高い丘が亀の首公園である。海を、市街地の向うに見下ろせる丘のその姿が、さながら、亀が、海に潜り込もうとしているのに似ているところから名付けられたものである。

さて、『積塵邦語』(長浜町出身・佐々木源三兵衛義行著)に見る「長浜八勝伝」の(立山花楓)によれば、その昔、大洲城三代目の藩主、

加藤泰恒公は風雅なお人であつたようだ。というのも、瀬戸の海を見晴らすこの小高い丘を殊の外愛でられて休憩所を造営、その周辺に桜や楓を植えて宴遊を楽しまれたという。現在、楓は見られないものの、桜はその時の名残りだろうか、春ともなれば、今なお何十本かが丘を色どり、ここ亀の首公園は町民の憩いの場所となっているのである。泰恒公は、この丘の休憩所に浴室を造られ、潮湯に浴されながら、西海を眺めやり、帰帆の漁舟にも心を馳せておられたのであった。今も、町内に見られる潮湯の原点は、或いはここに在ったのかも知れない。

時は移って廿一世紀とはなつたが、夕暮れどき、この丘に登って眺めやると、そこには、タイムスリップした「江戸時代初期の瀬戸の西海」かと錯覚してしまいがちな、帆船の浮かぶ美しい夕景が見えてくるのである。

亀首公園春景

信步尋芳 登小丘
紛紛紅雨 繪春愁
眺臨天際 彩霞夕
帰帆揺揺 数点浮

【仄起・尤韻】

歩に信せ芳を尋ね 小丘に登れば
紛紛たる紅雨 春愁を絵く
眺臨すれば 天際 彩霞の夕
帰帆 揺揺として 数点浮かぶ

○小丘―小高い岡のこと。ここでは亀の首公園をさす。
○紛紛―みだれ散るさま。
○紅雨―赤い花の散るたとえ。
○天際―天の果て、天涯と同じ。
○彩霞―美しいもや・かすみ。朝焼け夕焼けの美しい雲気。



肱川から見た亀の首公園

738-0025

広島県廿日市市平良

一―二―一九



先輩を偲ぶ

独学で教師を目指した
森岡数栄先生百九年の足跡(七)



上甲 修
(昭二九卒)

教員を志すようになる

大正時代の始め、森岡青年がまだ二十歳の頃、東京へ出て夜間の工手学校で学んで鉱山技師になりたい、という強い願いは、父親の反対で駄目になり少々落ち込んでいました。

丁度その頃、すぐ下の弟さんが隣町(郡中)の商店で夜遅くまで働き、人が寝静まってから勉強して准教員の免許状を取ったのです。その事を弟さんから聞いた森岡青年は大いに発奮、自分も教員の資格を取ろうと独学のプランを立てたのです。

松山の赤本屋で参考書を購入
○ 中学講義録 ○ 中学校教科書(古本) ○ 教科書の解説書
そのほか独学するのに都合のよいものを買求め、勉強時間は夕食後、午前二時までと心に誓ったのです。

鉱山の仕事は「堀場でこ」から「ジョレン引き」、鉱石を背中に背負う「負いてこ」そして「トロッ

コ押し」と変わっていききました。どれも重労働で、重労働の後の勉強はたいへん辛いものがあつたのです。

今晩こそ二時までがんばろう、と張り切つていても夜中になると知らぬ間に机にもたれて眠つてしまい、気がついた時は、早や鉱山へ行く時間になつてゐる事もしばしばあつたのです。しかし、苦しい勉強も続いているうちに勉強する教科の神髄というか、その内容が少しずつ分かり自分の知識が広がっていくので次第に楽しくなつて来たのです。

その上、森岡青年を勇気付けたのは二十歳を過ぎた頃、熱心な青年団活動と勉強青年ということが認められ、伊予郡の連合青年団長から表彰をされました。

その頃、鉱山では大勢の人達の生活物資、即ち米味噌、醤油から日用品に至るまで、約三〇種類の物資を一括して調達する「調進部」という部署ができ、その責任者に



20 歳頃の森岡先生

森岡青年が選ばれた。

昼間の仕事がソロバンと頭を使う仕事に替つたために、その苦労は精神的には大変でした。でも彼は効率よく多くの商品の注文、仕入れと受け渡し、帳簿の整理等を的確にこなしたのでした。その有能ぶりが社長に認められ、後に会社の経理まで担当するようになった。

検定試験を受ける

昼間の仕事が重労働ではなくなつたため森岡青年は計画通り午前二時頃まで勉強が出来るようになった。

中学講義録や旧制中学校の教科書がある程度学習したので森岡青年は愛媛県庁の学務課へ聞き合はした。

すると八月に松山の師範学校で国語と漢文そして法制と経済の検定試験を二日にかけて実施する、という詳しい資料をもらった。

検定試験を受けたあと森岡青年は一抹の不安を抱いていたが翌月、次のような合格証明書が届いた。

証明書

国語漢文 法制経済

愛媛県 森岡 数栄

明治二十八年十一月生

右者大正九年八月施行小学校本科正

教員試験検定ノ成績優良ニ付証明ス

大正九年九月二十五日

愛媛県

(☎) 791-1134 松山市恵原町甲六五三二二

追 慕



毛利 運衛
(昭二七卒)

昭和三十六年、旧五十崎町立天神小学校で、後に県校長会長をされた高橋将夫校長先生の指導を二年間受けた。

大洲から通勤されていた校長先生は一列早早く出勤して、一人で「般若心経」を唱えながら約一時間校庭の掃除をされていた。

若かった私は宿直室で掃除をされる竹箒の音を聞きながら朝寝坊をしていたのだった。

当初、私も反発していたがやがて他の先生や子供達と一緒に竹箒を手にするようになった。

校長先生が栄転された年、六年生学級を持ち上がり担任した。

始業式の日、子供達から「朝の自主掃除を続けよう」との話が出て学級目標の一つにしたのだ。

この一年間、私は親ゆずりの頑固さを発揮して校長先生が残された「道」を子供達と一途に歩み続けた。卒業式当日、子供達と共に体感した熱い感動が、その後退職まで約三十年間転動した六小学校

で「朝の掃除」を続ける契機となつた。

歳月は流れて一昨年、天神小学校で担任したY子(注3)が我が家に隣接する保育園の園長として赴任してきた。驚いたことに、Y園長は保育園前の道を猛暑や厳寒の時も毎朝掃除を続けているのである。

その姿を見てみると四十余年前の高橋校長先生を中心にした教え子達との熱い語らいが走馬灯のように去来する。

さらに、忘れることのできない貴重な指導を受けた。

毎週、月曜日に「週指導計画」の提出を求められた。同時に、一時間単位の学習指導案(週案)の自主提出も勧められた。私は友人教師と共に「日案」も提出して指導を受けた。

返された日案には、指導過程や発問・板書・資料等について詳細な指導助言が記載されていた。

この日案作成を継続する間に授業をすることが楽しくなり、怠けて日案を書かないと不安を感じるようになってきたのだ。

文部省や県指定の研究学校に長く勤務したこともあり、授業細案を作り、録音・再生・分析等を繰り返して自己満足したものだ。

この教材研究法は形態は変わりながらも退職するまで続けた。

校長職時代には、毎月の全校集
会で私が話す時間を全校児童と教
師に公開する「校長の授業」と位
置づけていた。

キラリと輝く子供の善行や季節
の移ろい・郷土の歴史文化等の話
題を一年生から六年生・先生方の
楽しい時間になるよう工夫し、ひ
そかに録音も続けた。話が終わる
と同時にチャイムがなることを期
待したものだ。

『チャイムがなっても授業が終
わらないのは教材研究不足だ』
という高橋校長先生の言葉を私は
重く受け止めていたのだった。

退職以来、十数年を経た昨今、
今は亡き恩師と共に歩んだ木造校
舎での在りし日々が鮮明に蘇ると
共に、追慕の情がしきりとつる
早春である。

付記

注1 当時は「天神村立天神小学
校」(現在の内子町立天神
小学校)

注2 松山市立城東中学校の勤務
中に県校長会長(昭和五十

五十二年)就任

注3 Y子く内子町立五城保育
園・高倉靖子園長

注4 香川県綾歌郡国分町で平成
十九年二月二十一日ご逝去

(☎791-3310 喜多郡内子町城廻六一)



同期会

「南予とつくり会」
終わりの記



牧野 光利
(昭一九卒)

平成十九年五月二日、西予市宇
和町の松尾旅館で、「南予とつく
り会」を開きました。参加した人

は、松山市から平野幸雄君、宇治
勝久君、砥部町から城ノ戸義正君、
大洲市から村田喜重君、内子町か
ら毛利弘衛君、西予市から宇都宮
哲男君と私、宇和島市から久野俊
男君、茅田周家君、愛南町から赤
松亨君、小林清君の十一名でした。
体調不良等の理由で九名の方の不
参加は残念なことでした。

「とつくり会」の名称は昭和

十九年卒業の同級会で、「十九」
から由来するものようです。更
に「南予とつくり会」というのは、
卒業と同時に県内南予地区に就職
したものの会でした。本会の「とつ
くり会」は八十歳の時「遙かなり」
の記念誌を刊行して終会となりま

した。「南予とつくり会」は南予
各都市持ちまわりで特色ある企画
でやろうということ今回まで続
けてきました。前回の愛南町での
会は、交通の便なども影響して集
まりが悪かったので、終わりの会
は宇和町でやってほしいというこ
とでこの会を企画しました。

そんなことで今回はただ集まっ
て、今までの会の思い出話や、い
ろんな世間話や日常生活など話し
合って時を過しました。いつもの
ことですが、城ノ戸義正君が手作
りの砥部焼の小品を配っていただ
き、いい思い出をつくってくれま
した。

話題の中で思い出話、日時や場
所など多少のちがいはあると思っ
ますが、各地区での「南予とつく
り会」の歩みを思いつくまま書い
てみます。

三瓶町では湾内を屋形舟で島め
ぐりと須崎観音詣で、海上の宴会
を楽しみました。

内子町の笹まつりを見学し、内
子の町並みを散策して、「内子座」
の内部の説明を聞きました。
水の都大洲市では、夜の肱川の

川下りで、「ウ飼い」をたんのう
させてもらいました。

宇和島市は度々ありましたが、
先ず最初に「でこぼこ寺」を訪ね
ました。珍しい資料にびっくりす
るばかりでした。

丸山闘牛場で闘牛見学、横綱牛
の争いは壮絶なものでした。「天
救園」「さかの温泉」の入湯など
思い出つきなものばかりでし
た。

岩松南楽園の訪問は、つつじ祭
り、梅祭り、はなししょうぶなど、
何度か足を運びました。

岩松では白魚漁をまのあたりに
見て、「白魚のおどり喰い」に挑
戦しました。はじめてのことで感
激するばかりでした。また獅子文
六氏の「てんやわんや」にゆかり
の旅館での一席も興深いものでし
た。

百姓一揆の日吉村で武左衛門遣
跡を見学しました。

愛南町では真珠の加工実習を体
験し、真珠のネクタイピンをつく
りました。ロープウェイをのぼり
紫電改を見ました。

宇和町では歴史博物館、開明学
校を見学し、四国霊場四十三番、
明石寺裏の苔庭を見ることが出来
ました。

まだまだいろいろあったかも知
れませんが、年のせいで忘れてし

まいました。こういう楽しい集い
を企画していただいた各都市の世
話人の方に感謝するばかりです。
この会をやめるということは残念
なことですが、年齢も進み、体
も弱ってききましたので今回で終
ることにしました。昭和十九年
はじまり、平成十九年に終わった
こと、なにか「とつくり会」にか
かりがあったのかも知れないと
感慨深く思うのです。

(☎797-0032 西予市宇和町田苗真土
一五八〇)



全員八十路についた
愛媛師範
二十二年卒同期会



柴田 教市
(昭二二卒)

期日 平成十九年十月二十二日
場所 松山市大街道伊予鉄会館
出席 三十八名

この秋一番とも思える爽やかな十月二十二日、二十二期生の二十回目の同期会が開催された。定刻十二時記念写真を撮り席に着く。光田比公幹事の司会進行。上原勲代表より遠来の友の参加を労い再会の喜びと歓迎の挨拶が



あった。続いて校歌斉唱(近藤隆光君指揮、伴奏を白上正君)「行方も知らず流れ去る」意味深の歌詞、この瞬間学徒の顔にたち返り、「動かぬ勇姿惚べ人」まで一気に歌いあげる。

光田幹事の経過報告、先ずこの一年間で亡くなった青野弘兄、小野方禧兄、秦威夫兄、東洵章兄、大上岳久雄兄の冥福を祈り黙祷を捧げる。先年奏兄が「妻を介護して十五年になる。俺が元気でなければ誰が妻を介抱する」と言っていたその本人の死去は痛ましい。大上岳久雄兄は、この会の前々日帰らぬ人となった。現実人は人も時も容赦をしてくれない。卒業生二百二十八名、物故者は九十一名 不明者六名

当日四十一名から欠席届けがあったが、殆どが病状報告、回復を祈るのみである。

乾杯の発声を東京から馳せ参じてくれた谷口敬君にお願いする。乾杯に先だち関東地区在住の同期生の近況報告があった。十余名いて時折ミニ同期会を持つという。再会の機会は難しいであろうが健勝を祈りたい。(乾杯発声)

松浦亀君が立ち、山本音松君(脳梗塞で身体不自由) 岩瀬延夫君(パーキンソン病で歩行困難)を訪問しての報告がある。次いで宮崎勝政君より、東洵章兄への弔慰の謝礼があった。東洵章兄はこの会のスナップ写真を撮り都度都度郵送してくれたものであった。先



年亡くなった大橋伝兄もこまめに写真を送ってくれていた。

事前に幹事より同期会の記念品にと、三宅武夫先生の式紙、「葱坊士風にゆれて五月」が送られてきた。郵送、印刷等費用はどうしたの間に對し、幹事の返事が面白い。「最近酒量が減ったので酒代の請求が少なく、その分で経費が賄えるから心配はいらん。」と

三宅武夫先生の名前は記憶から消えていたが、「ねこさんじゃがね」で六十五年も前のことが蘇ってきた。一年生の半ば頃転出された書道の先生で「ねこさん」という渾名が記憶を助けてくれた。それぞれの報告が終り宴会となる。円卓に六、七名が集い盃を酌み交わす。「ようっ」「元氣か」「久しぶりだね」それで充分である。話題は懐旧談か健康問題か。

会場で配られた印刷物の中に、「思い出のうた」がある。必ず歌うのが学徒動員の歌「あ、紅の血は燃ゆる」である。その他「同期の桜」「戦友」「男なら」「せんせい」「湯の町エレジー」も「南国土佐」もある。陳腐のものばかりと笑うなかれ、「わが青春のうた」である。

尚、「あ、紅の血は燃ゆる」は卒業五十周年記念誌の表題としている。光田比公君による赤表紙に揮毫された金文字が光る。

後日電話によれば、谷口敬君と松浦亀君は「にぎたつ荘」で一泊したそう、小学校からの同級生である。翌日野村正三郎先生のご息女のお宅を訪ね先生の遺品(オブリエ)を拝見した由であった。

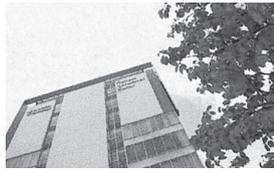
当日会場での話、高瀬敏明君、翌二十三日「鳥なみ街道サイクリングの会」に参加するという。健康を發揮されたこと、思う。健康ならばこそである。またたく間に三時となる。散会の言葉は広島から足を運んでくれた豊島陸君に依頼する。

健康を祈り再会を約して北へ南へと会場を後にした。後記 会報を読み返して 鬼籍に入った 伊藤鉄夫、岡野一、藤原康之、大橋伝諸兄の同期会報告書が目にとまり、感慨無量なものがあった。百三号に寄せられた、大野憲先輩の「十七会解散」の記事は身につまされる思いがした。

お知らせ

愛媛大学校友会 東京支部が設立された

平成十九年七月一日(日) 十三時から、東京都港区芝浦三十二丁六にあるキャンパス・イノベーションセンター(CICC)において、愛媛大学校友会東京支部設立総会が開催された。会には来賓を始め各学部同窓



会本部役員、関東地区の各学部同窓会員、退職教員の会、退職職員会等からなる校友会会員約百名に近い出席があった。

この会場は、JR田町駅の東口

から徒歩一分で着き、愛媛大学サテライトオフィス東京の事務所が五階にあるとても便利な場所にあった。



学生募集用に作成された愛媛大学紹介の映像が流れ、出席された方々も懐かしい思い出に浸りながら会話が弾んでいた。

設立総会次第は次の通りであった。

- 一 開会の辞
- 二 発起人代表挨拶 赤枝 忠義
- 三 来賓紹介
- 四 来賓代表挨拶
・ 校友会会長 森本 惇
・ 愛媛大学長 小松 正幸
- 五 議事
・ 支部規約について
・ 役員の選任について
 ↳ 五分休憩
- 六 閉会の辞

発起人代表挨拶で赤松氏が設立までの経過を詳しく説明をされた。来賓代表挨拶では、先ず森本校友会会長から校友会の主な活動



関わりについて熱いお話があった。総会は、議事どおり恙なく進行し、支部役員が承認された。

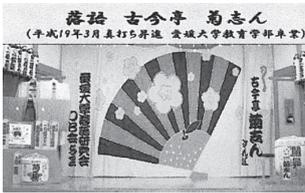


そこで、高崎東京支部長が、就職



支援・会員相互の進行等について支部の活動方針の説明があった。

愛媛大学教育学部卒業生で、今年の三月に真打ちに昇進された落語家「古今亭菊志ん」さん



立総会のイベントとして、閉会后、設立総会のイベ

ん落語(演題「時そば」)の披露があり、会場は、終始笑いの渦に巻き込まれ、和やかな一時を過ごした。

イベント終了後、懇親会が開かれ、各学部長からもそれぞれの学部の現状等の話があったり、抽選会が開かれたりと和気藹々とした時間が過ぎていった。



総会を通じて感じたことは、学部の垣根を越えた同窓会員、また、愛媛大学に関わる退職教職員、現職教員等が丸となって愛媛大学を支えるために、平成十六年三月に発足した校友会の国内初めての支部として、結束を固めた記念すべき総会となったことである。

第十一回
教育学部同窓会
懇親会
開催予定の
お知らせ

日時 平成二十年
八月十七日(日)

場所 愛媛県民文化会館
真珠の間

対象 男子師範・女子師範・
青年師範 愛大教育学部

※ 詳細は 七月号に掲載
— お誘い合わせて、多数
の同窓生のご参加をお待
ちしています —

平成 19 年度愛媛大学教育学部同窓会 第 1 回 常 任 理 事 会

会 議 報 告

開催日時 平成 19 年 9 月 29 日 (土) 10:00 ~ 12:05
 場 所 愛媛大学教育学部 朋友会館 2F 小会議室
 出席者 奥定 一孝、 峯本 高義、 村上 朋子、 平松 義樹、 垂水 葉子、
 高橋 治郎、 正岡 義憲、 菅田 顕 以上 8 名

協 議 内 容

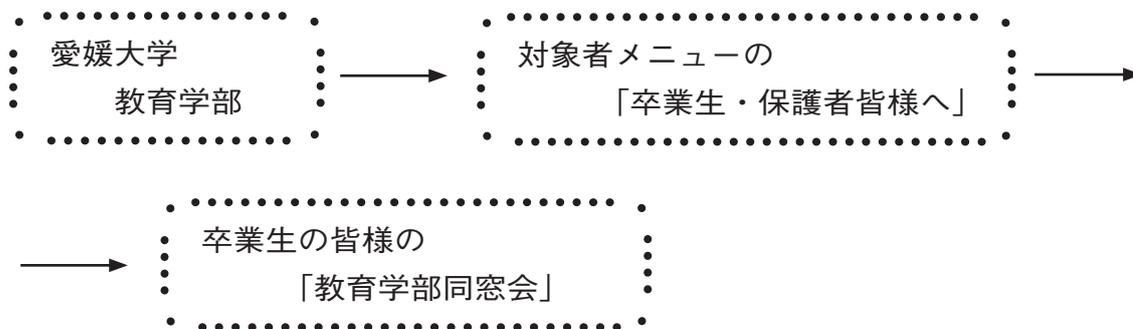
1 支部の改編等のあり方について

- (1) 現在の支部の現状
 - ① 現在の支部数及び支部名
 - ② 現在の支部助成金
- (2) 支部活動の現状
- (3) 今後の支部のあり方
 - ① 支部再編成について
 - ② 支部活動の活性化について

2 同窓会名簿の編成整理について

3 同窓会報の内容について

会報 104 号を、愛媛大学教育学部のホームページに掲載している。
 アクセスするには、先ず、愛媛大学教育学部のホームページを開く。
 続いて以下の操作をする。



4 同窓会への寄付金の呼びかけについて

5 ホームページの活用について

6 その他

- (1) 平成 20 年実施予定の「第 11 回愛媛大学教育学部同窓会懇親会」
- (2) その他

以上の協議内容につきましては、平成 20 年 1 月に開催される同窓会理事会におきまして再度詳しく検討し、それをもとに支部長会での協議を経て、上記内容の具体的活動が決定いたします。

この活動内容につきましては、7 月発行予定の 106 号に掲載する予定です。

敬 弔

(物故会員)

(死亡年月日)

(氏 名)

19 7 22	19 7 14	19 7 10	19 7 6	19 7 5	19 7 1	19 7 1	19 6 23	19 6 21	19 6 12	19 6 2	19 6 1	19 5 29	19 5 24	19 4 12	19 4 8	19 2 4	18 9 27	18 7 20	17 9 10
小野方禧 (昭22 本科)	正岡艶子 (昭32 愛大)	伊藤和子 (昭23 青師女子)	鈴木恵子 (昭24 本科)	伊藤勤 (昭21 愛師女子)	山本和子 (昭17 本科)	石川キヨノ (昭7 本科)	中田三市 (昭7 本科)	大西勝義 (昭31 愛大)	稲田熊三郎 (昭9 本科)	越智鹿雄 (昭31 愛大)	重松清 (昭18 本科)	門屋請 (昭4 本科)	須賀梅子 (昭29 愛大)	早瀬豊 (昭32 愛大)	玉井久世 (昭23 本科)	中里忠 (昭13 本科)	高橋重雄 (昭6 本科)	伊川幸夫 (昭11 本科)	内藤静子 (昭11 本科)

19 10 8	19 10 8	19 9 29	19 9 28	19 9 26	19 9 24	19 9 18	19 9 12	19 9 11	19 9 8	19 8 25	19 8 21	19 8 20	19 8 19	19 8 15	19 8 14	19 8 12	19 8 11	19 8 8	19 8 3	19 7 24
永井教充 (昭16 本科)	東堂秀雄 (昭13 本科)	渡辺盛正 (昭3 本科)	長尾サカエ (昭20 本科)	上岡治郎 (昭24 本科)	岡田定雄 (昭33 愛大)	岩田徳幸 (昭31 愛大)	菅良夫 (昭22 本科)	東海章 (昭12 本科)	越智坂一 (昭22 本科)	秦威夫 (昭18 本科)	野間昇 (昭18 本科)	井上芳邦 (昭15 本科)	河野文男 (昭20 本科)	秋山迪雄 (昭24 本科)	富田昇 (昭32 愛大)	野村徳知 (昭28 愛大)	日野彦文 (昭12 本科)	友近巽 (昭20 愛師女子)	吉岡正子 (昭27 愛大)	佐伯徹洲 (昭27 愛大)

20 1 7	19 12 31	19 12 30	19 12 28	19 12 28	19 12 28	19 12 27	19 12 26	19 12 11	19 12 7	19 11 30	19 11 15	19 11 14	19 11 12	19 11 8	19 11 5	19 11 4	19 11 1	19 10 27	19 10 17	19 10 11
白石可夫 (昭22 本科)	渡辺實 (昭19 本科)	大内信磨 (昭24 本科)	河村藤子 (昭25 青師女子部)	井川教養 (昭18 本科)	鶴見俊夫 (昭26 愛大)	三好博 (昭16 本科)	森岡陽一 (昭24 本科)	山上満寿美 (昭23 青師)	秋山宏平 (昭8 本科)	神野忠利 (昭14 本科)	三好喜一 (昭25 青師)	鈴木蘭芷美 (昭57 愛大)	石山光一 (昭9 本科)	高橋重政 (昭23 本科)	薄墨賢衛 (昭15 本科)	渡部重久 (昭20 青師)	相原俊明 (昭16 本科)	守田五男 (昭23 本科)	岩城總一郎 (昭24 本科)	西村温一郎 (昭24 本科)

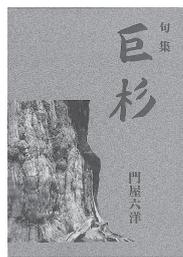
会報発送について

県外にお住まいの同窓生の方で、会報が届かない方がいらっしやいましたら、愛媛大学教育学部同窓会事務局までご連絡ください。また、県内の方でしたら、次のような方法をとってください。

- 居住地の小学校の愛大教育学部同窓会係の先生に次の三つのことを連絡してください。
(年度初めの時には、四月二十日頃までに連絡してください。)
- ① 愛媛大学教育学部同窓会会員であるから会報を配布してほしい。
- ② 住所
- ③ 氏名

※届けられた名簿で、係の先生がお世話してください。

寄贈図書



寄贈者・著者 門屋 六洋
A5判 三五三頁
発行所 亀岡 邦生

会報の送料納付について

平成十九年二月号でもお知らせしましたように、会報の個人宛発送は、送料を各自で負担していただくことになっております。出費多端の折柄恐縮ですが、未納の方は、左記要領で納付方をお願い申し上げます。

記

- ① 一年間五〇〇円で、二年間分ずつ取るようになっていきます。
 - ② 二年ごとの更新は、煩さなので、何年間かを、まとめられる方もあります。
- 納付期限 毎年三月三十日までとし、二年毎に更新する。
- 送金方法 郵便為替・現金書留・振替口座番号
- 振替口座番号 ○一六四〇一七二七五四
- 送り先 ☎七九〇一八五七七 松山市文京町三 愛媛大学教育学部同窓会
- 領収書は、振替用紙をもって、かえさせていただきます。